

味や利用意向が高くなっています。

このことから、博物館は見学会へこれまで以上に力を入れることにより新たな博物館利用者の獲得につながると考えられます。

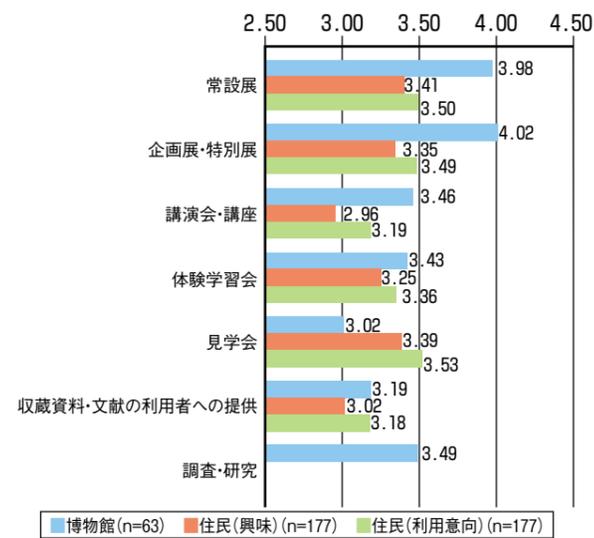


図19 博物館の事業内容別の注力度合・興味・利用意向

5. 地域性の比較

これまでは多摩・島しょ地域内について検討してきました。ここで、東京都内でも地域によってどのように状況が異なるかを確認するために、東京都特別区地域の博物館の状況と比較し、多摩・島しょ地域における博物館を振り返りたいと思います。

比較項目は、結果として両者の状況に比較的違いが表れた、来館者からの利用者ニーズの把握(図20)についてです。この結果は、東京都特別区地域全23区を対象に行ったアンケート調査¹⁷(以降、「23区アンケート」という。)を基

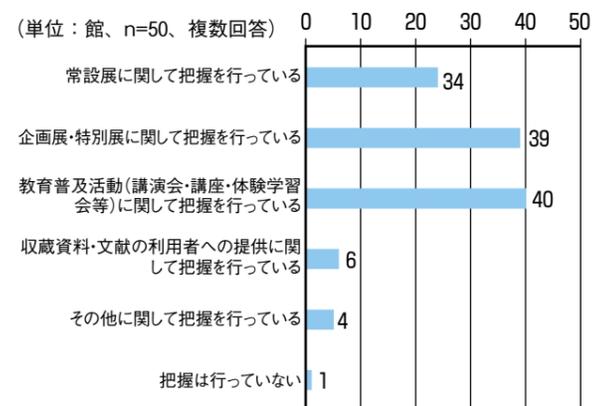


図20 東京都特別区地域の博物館における来館者からの利用者ニーズの把握

にしています。

多摩・島しょ地域と異なるのは、常設展、企画展・特別展、教育普及活動の3項目について把握している率が大きいことです。特に教育普及活動は23区アンケートでは博物館の8割が把握しているのに対し、多摩・島しょ地域自治体アンケート調査では博物館の5割弱しか把握していません(図6参照)。このことは、その後の博物館運営のフィードバックにもつながることで、博物館とその利用者について考える場合、重要な事項の一つになりえます。

6. 本調査のまとめ

本調査は多摩・島しょ地域の博物館とその利用者についての現状を確認し、今後さらに良い関係性を築いていくにはどこに視点を向けたいのかを知るために、博物館と利用者との意識のギャップについて検証し、今後博物館が取り組んでいくべきことを探りました。

今後、今回の検討結果を参考に各博物館において点検・検証することによって、自館にあった博物館と利用者との関係性が見いだせるので

【事例紹介】新島村博物館

東京都島しょ町村において、唯一「係」として職員を配置している博物館で、活動も多方面にわたります。村のこれまでの歩みが解説を含めて分かりやすく展開されているなど、よく作り込まれた常設展があります。日頃の調査・研究の成果などを期間を区切って展示する企画展・特別展、島の古老に講師を依頼する体験型の事業なども豊富に展開しています。村民のみを対象とせず、島外からの来館者もターゲットにしています。



博物館センター展示「樺受網漁、六挺張りてんま船」

はないでしょうか。その際の参考になるように、10年ほど前から話題になっている回想法¹⁸の原点ともいえる“実物”資料の持つ魅力を存分に活用した博物館の事例を紹介して、まとめに代えます。

【博物館明治村】

今から約50年前に開館した博物館明治村(愛知県犬山市)は、明治時代に造られた建造物を移築復原した野外博物館です。現在、60棟を超える建造物を有し、その建造物の中には10の重要文化財が含まれています。貴重な建造物を活用しながら保存している博物館です。それぞれの建造物の移築に際しては、学術的に確認をしながら当時の部材もしくは当時と同じ材料を使用して復原しています。これが、来館者にとっては“実物”の迫力につながっているのです。

また、ボランティアによる館内のエリアガイドや建物ガイドといった、解説ツアーも毎日実施しています。

年間40万人を超える来館者があり、建造物の展示だけではなく、各種イベントを実施することでリピーターの確保にも努めています。

館内を散策する来館者やボランティアガイドを受ける来館者など、各人が笑顔になったり興味を持って話を聞いたりしている姿が大変印象的でした。

ちなみに、明治時代に愛知県豊橋市出身の村井弦斎によって書かれた小説「食道楽」に出て



明治時代の独房体験ができる

くるレシピを、現代風にアレンジした“明治のグルメ”も味わうことができます。また、かつて現在の東京都内にあった建物もいくつか移築復原されていますので、より身近に感じることができるかもしれません。

7. おわりに

本調査で見てきたように、多摩・島しょ地域には多くの博物館が存在しています。これらは、それぞれ目的を持って設置されており、その目的も各博物館により異なります。これまで、博

物館に関する、各種アンケート調査の集計結果をもとに本論を進めてきました。これはある意味で一定のエリア内におけるスタンダードを確認し、そこへどれだけ近づけられるかという印象を与えるかもしれません。博物館という同じ土俵にあったとしてもそれぞれの自治体内での役割分担や目的等が異なるはずで、そういう機関である博物館に対して標準化させるということが必ずしも良い選択とは考えられません。これは、行き着くところが地域に根差した博物館であると仮定するならば、その地域ごとで到達点が異なると考えられるからです。

しかし、いずれにしても博物館は、来館し利用してもらってこそ価値があり、利用者のニーズに合わせて改善をすることでその満足度の向上に寄与することができるのです。ひいては、住民による地域資源の再発見や、歴史・文化等を踏まえたまちづくりにもつながると期待されます。

本稿は多摩・島しょ地域の博物館の現状を示していますが、各博物館においてはあくまで参考という形で、必要なところを活用していただけたらと思います。

今回の調査が、今後の博物館運営・施策を検討する際の参考になれば幸いです。

なお、本調査で実施した自治体アンケート調査において、「展示事業」と「教育普及事業」を別の分野の事業として分けていますが、教育普及事業の中に展示事業が含まれることから、結果を読むに当たってはその重複について考慮する必要があることを記して本稿を閉じます。

※近日中に、多摩・島しょ地域の自治体が設置した博物館を紹介した冊子「多摩・島しょ地域自治体の博物館ガイド(仮称)」を発行する予定です。多摩・島しょ地域自治体へ送付いたしますので、地域資源の再発見への契機にいただければ幸いです。

引用文献

東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課(2013):『平成24年度 区市町村生涯学習・社会教育行政データブック』, 東京都教育庁地